

③1 新年摺

このほとはそも

かすむなり

茶の木原

紅梅にぬるはかりなる

小家かな

辰の春

和融園梅臚

③2 新年摺

口そゝく

水にも

むめの

かほりかな

ひつしのはる

鷹羽

③3 新年摺

我影も

旭に

育ちけり

小松引

巳の春

青松庵

銀月

印

③4 新年摺

庭掃て

又外出する

梅見かな

閑翁

七五三張し鳥居の内や梅のはな

橋ひとつ見立茶を煮る霞かな

万歳や顔のほくろの愛らしき

敷ならず砂のしめりや春の月

炉の炭のうつる音してはつ鴉

鶯の人見おろして初音かな

願ふ事ありて

是非ひらく福寿草にも手入かな

巳のはる

仙覺書 印

蘭好

③5 新年摺

和歌の浦の貝嚙当てあふり海苔

七草に足るも一日仕事かな

籠馴て鳥静なり春の風

滝の音の耳底にある余寒哉

御降や富士の烟りの浅みとり

外風呂の屋根にもうつす柳かな

西ノ春

蒼丘

素文

玉令

蒼髯

梅洌

五陵

③6 新年摺

正月やおもしろ

き日はくれ安き

たつの春

花醉軒

印

③7 新年摺

旧号を継てはしめて

はるにむかふ

藪かけや月の

余りを梅かほる

未とし

竹江

印